

交通安全お守りの実態調査

鈴木春男*

An Investigation into the Actual Condition Concerning a "Charm"
for Traffic Safety

車と信仰がどのような形でかかわっているかをめぐる実証的なデータは大変不足しているのが現状である。そこで、今回、国際交通安全学会では事務局を中心に、東京と大阪で駐車している車のお守りの保持状況を観察調査してみた。東京では318台、大阪では339台の車を調べたが、あくまで外から観察したものであり、運転者にインタビューしたものではないので、例えばグローブボックスの中にお守りを保持していたり、個人がふところの中に所持しているようなケースは除かれてしまっている。また、運転者個人の属性やお守りをめぐる内面的な意識などは直接的には究明できないわけであり、車の形状やボディの色などから推定するという方法をとった。

以下、そこから得られたデータをもとに6つの表にまとめ、それぞれについて簡単な解説を試みたい。なお、Table 6はお守りのある車についてのみ、その保持形態を詳細に見たものであるが、先に述べた東京・大阪のデータでは、お守りを所持している車は197台と少なく、詳細なクロス集計ができなかったため、東京でさらに所持している車のみ169台を新しいサンプルとしてつけ加え、合計366台について集計したものである。

Table 1 地域別お守りの有無および保持形態
Statistics on traffic-safety amulets by geographic location (Tokyo vs. Osaka) (単位: %)






	なし	あり	「あり」の内訳1			「あり」の内訳2		合計 (台)
			車内か、車外か			お守りの数		
			外あり 内なし	外なし 内あり	両方 あり	1つ	複数	
東京	65.1	34.9	3.1	28.9	2.8	23.3	11.6	100.0 (318)
大阪	74.6	25.4	3.8	19.5	2.1	18.0	7.4	100.0 (339)
合計	70.0	30.0	3.5	24.0	2.4	20.5	9.4	100.0 (657)

駐車している車のうち、お守りを何らかの形で所持している車は全体の3割である。すでに述べているように、車の見えないところに保持していたり、個人的に所持しているケースは除かれていながらこの数字が出ているのであるから、車の運転には信仰が大きくかかわっている

ことがわかる。

東京と大阪で比較すると、東京の方がお守りを保持する傾向が強く、大阪人の合理的発想の反映かも知れない。また、大阪に較べて東京では車内に保持するケースが際立って多く、反面大阪ではわずかではあるが外に貼付し、内には何も所持していないケースが多い。他車からの安全を維持したいという大阪人の合理的発想と、自分自身の安全のためという東京人の内面的発想の反映といったら、言い過ぎであろうか。

Table 2 車の形状別お守りの有無および保持形態
Statistics on traffic-safety amulets
by automobile type (単位: %)

	なし	あり	「あり」の内訳1			「あり」の内訳2		合計 (台)
			車内か、車外か			お守りの数		
			外あり 内なし	外なし 内あり	両方 あり	1つ	複数	
	70.6	29.4	3.3	24.4	1.8	20.9	8.5	100.0 (398)
	66.3	33.7	5.3	24.6	3.6	23.1	10.7	100.0 (169)
	72.5	27.5	2.5	22.5	2.5	20.0	7.5	100.0 (40)
	78.9	21.1	0	18.4	2.6	10.5	10.5	100.0 (38)
	66.7	33.3	0	25.0	8.3	8.3	25.0	100.0 (12)
合計	70.0	30.0	3.5	24.0	2.4	20.5	9.4	100.0 (657)

ハッチバック型の乗用車およびトラック（サンプル数が少ないので確実にはいえない）にお守り所持車が多く、ライトバンやワンボックスカーには少ないというのは面白い。セダン型乗用車の場合にはさまざまな特性をもった個人が利用していることで特徴が出にくかったと推定される。ハッチバックはどちらかという個性的な車であり、運転者の年齢も比較的若いことが推定されるが、そこで所持車が多いということは、年齢にかかわらず信仰が深く浸透していることを示している。ただ、車内に所持し車外には貼付していない車の比率は形状にはほとんど関係していないことから、ハッチバックに所持車が多いのは外に貼付している車の多いことによることがわかり、お守りが一種のアクセサリ化した結果と見ることもできる。

*Haruo Suzuki
千葉大学教授、本学会員
Professor, Chiba University

Table 3 ボディーの色別お守りの有無および保持形態
Statistics on traffic-safety amulets by automobile color

	なし	あり	「あり」の内訳1			「あり」の内訳2		合計 (台)
			車内か、車外か			お守りの数		
			外あり 内なし	外なし 内あり	両方 あり	1つ	複数	
無彩色	72.8	27.2	4.1	21.5	1.6	19.4	7.8	100.0 (386)
彩色	69.4	30.6	2.7	24.4	3.5	20.9	9.7	100.0 (258)
不明	0	100.0	0	92.3	7.7	46.2	53.8	100.0 (13)
合計	70.0	30.0	3.5	24.0	2.4	20.5	9.4	100.0 (657)

この場合、無彩色とは白、灰色、銀色、黒などの車をさし、彩色とは赤、青、黄色、茶その他をさしているのであるが、この場合も形状と同様、比較的個性的であり、年齢的にも若い運転者と思われる彩色車の方に所持車が多いのは注目される。また、お守りを複数所持している車も彩色車に多くなっている。

Table 4 車外アクセサリ一別お守りの有無および保持形態
Statistics on traffic-safety amulets by amount of exterior accessories

	なし	あり	「あり」の内訳1			「あり」の内訳2		合計 (台)
			車内か、車外か			お守りの数		
			外あり 内なし	外なし 内あり	両方 あり	1つ	複数	
なし	70.7	29.3	2.9	24.3	2.0	20.5	8.8	100.0 (547)
少しあり	64.6	35.4	8.9	22.8	3.8	21.5	13.9	100.0 (79)
多くあり	64.3	35.7	0	28.6	7.1	28.6	7.1	100.0 (14)
不明	76.5	23.5	0	17.6	5.9	11.8	11.8	100.0 (17)
合計	70.0	30.0	3.5	24.0	2.4	20.5	9.4	100.0 (657)






個性ある車の方が、お守り所持車が多く、そのことからお守りが一種のアクセサリ化しているのではないかという解説を試みてきたのであるが、それでは実際にお守り以外のアクセサリを保持しているかどうかによって、お守りの所持率に変化は生ずるのであるだろうか。車外アクセサリとの関係では両者は相関が深いといえそうである。車外アクセサリを保持している車は、やはりお守りを所持している車が多いことがわかる。ただ、ここで注目されるのは、車外アクセサリを大変多く保持している車は、少し保持している車に較べると、お守りについては車内に保持するケースが多いということ、さらにその数では全体として1つというケースが多いということである。解釈の仕方はいろいろあろうが、やはりお守りも他のアクセサリと同様の位置づけがされているからかも知れない。

Table 5 車内アクセサリ一別お守りの有無および保持形態
Statistics on traffic-safety amulets by amount of interior accessories

	なし	あり	「あり」の内訳1			「あり」の内訳2		合計 (台)
			車内か、車外か			お守りの数		
			外あり 内なし	外なし 内あり	両方 あり	1つ	複数	
なし	75.6	24.4	3.3	19.3	1.9	17.0	7.4	100.0 (430)
少しあり	59.6	40.4	4.5	32.1	3.8	29.5	10.9	100.0 (156)
多くあり	58.3	41.7	3.3	36.7	1.7	21.7	20.0	100.0 (60)
不明	63.6	36.4	0	27.3	9.1	27.3	9.1	100.0 (11)
合計	70.0	30.0	3.5	24.0	2.4	20.5	9.4	100.0 (657)

車内アクセサリ一との関連でも、車外アクセサリ一と同様、アクセサリを保持しているところでお守り所持車が多い。ただ、この場合注目されるのは、車外にアクセサリをもつ車は車内にお守りをもつ傾向が強く、また数も1つのケースが多かったのに、車内アクセサリ一車の場合には、お守りもあくまで車内に、また数も多くという傾向が強く、車内アクセサリ一車と車外アクセサリ一車との特性の違いが明確である。車内にアクセサリ一を多く保持している車の場合には、車内空間を自分の居室または城として考え、他車のことについてはあまり意識していない傾向があり、そのことが自分自身の安全のためのお守りという発想を呼び、それが車内にお守りを所持するという傾向を生み出したのかも知れない。

Table 6 車の形状別お守りの保持形態(お守りある車のみ)
Statistics on traffic-safety amulets by automobile type (among the automobiles which has the amulets)

	外1 内0	外0 内1	外複 内0	外0 内複	外1 内1	外複 内1	外1 内複	外複 内複	「ある」車 の合計 (台)
	21.2	57.6	1.4	15.7	2.3	0.5	1.4	0	100.0 (217)
	19.6	55.4	3.3	14.1	5.4	0	1.1	1.1	100.0 (92)
	0	62.5	6.3	12.5	12.5	0	6.3	0	100.0 (16)
	7.7	61.5	0	23.1	7.7	0	0	0	100.0 (13)
	0	76.0	0	20.0	4.0	0	0	0	100.0 (25)
不明	33.3	0	0	66.7	0	0	0	0	100.0 (3)
合計	18.0	58.2	1.9	16.1	3.8	0.3	1.4	0.3	100.0 (366)

お守りを所持している車のみについて、その保持形態を詳細に見たものである。セダン型の場合には外に1つだけお守りを貼付するというケースが平均値より高く、ハッチバックの場合には、どんな形にせよ外に貼付しようという傾向が見られる。それに対して、ワンボックスカーやトラックでは、車内に所持しようとする傾向が見られるのである。